



教えて! キコス先生!

新人ナースじん子ちゃんと先輩ナース

**CKD・腎移植を語れる
看護師になろう!**



「腎移植ってわたしにもできるの？」



- 新人看護師じん子ちゃんは、透析歴10年の65歳の山田さんに聞かれました。
- そうです、じん子ちゃんは新人透析ナースです。
- 「聞かれてしまった」どうしよう・・・と思って何も言えず愛想笑いでその場を後にしてしまいました。
- 「ど、ど、ど、どーしよう！！！」



教えて～！ キコス先生～！

移植のことなら
キコス先生に聞く
のがいいわよ！





じん子ちゃん安心して！
1から教えるわね



腎移植ってどんなこと？



腎移植は、健康な家族(親族) から2つある腎臓の1つを提供してもらう **「生体腎移植」**
日本臓器移植ネットワークに登録して、亡くなった人から腎臓を1つ提供してもらう
「献腎移植」 の2種類があります。

- 腎移植を受けられる条件については、特に規則で定められているわけではありませんが **生体腎移植の場合は、自らの意思で腎臓の提供を希望されている家族がいることが条件** となります。
また、腎移植の生体ドナーとレシピエントの条件についてはガイドラインがあります。
- 腎移植を受けられる人は、現在透析治療を受けている患者さん、もしくは受けていなくても近い将来に透析治療が必要になる患者さん（末期腎不全）が対象となります。



生体腎移植のガイドライン

日本移植学会ホームページで記載されている腎移植関連のガイドラインには、生体腎移植ガイドライン¹⁾、生体腎移植ドナーガイドライン²⁾、腎臓採取マニュアル³⁾があります。ガイドラインではありませんが、腎移植医療の倫理面から検討した生体腎移植ドナーの範囲を定めた規定⁴⁾があります。

- 1) 日本移植学会. 生体腎移植ガイドライン. 日本移植学会ホームページ.
http://www.asas.or.jp/jst/pdf/guideline_002jinishoku.pdf
- 2) 両角國男, 市丸直嗣, 片山昭男, 他. 生体腎移植ドナーガイドライン. 日本移植学会ホームページ.
<http://www.asas.or.jp/jst/pdf/manual/008.pdf>
- 3) 北田秀久, 相川 厚. 腎臓採取マニュアル. 日本移植学会ホームページ.
<http://www.asas.or.jp/jst/pdf/manual/006.pdf>
- 4) 日本移植学会倫理指針. 日本移植学会ホームページ
http://www.asas.or.jp/jst/pdf/info_20120920.pdf

日本の腎移植でのガイドライン

両角國男

増子記念病院腎臓内科,
日本移植学会生体腎ドナーガイドライン作成委員会委員長

Clinical practice guidelines for renal transplant donors and recipients in Japan

Department of Nephrology, Masuko Memorial Hospital,
Chairperson of a guideline committee of Japanese Society for Transplantation
for living renal transplant donors
Kunio MOROZUMI

【 Summary 】

Guidelines for clinical practice of kidney transplant donors and recipients are pivotal to perform quality-controlled kidney transplantation. The guidelines for both renal transplant donors and recipients have recently been developed during a recent 3-year-period in Japan. A joint study by the Japanese Society for Transplantation and the Japanese Renal Transplant Society led to these important results. Guidelines for the care of live renal transplant donors were partially determined by reference to the Amsterdam Forum as an international authority on such standards. A society member who consents to be a donor should be competent, willing to donate, free of coercion, medically and psychosocially suitable, and fully informed of the risks and benefits as a live donor. Details of the criteria are modified to reflect the current situation in Japan. The standard list of criteria and the marginal list of criteria are prescribed as the result of studying past records. The precise criteria of donor age, renal function, hypertension, body mass index (BMI), and diabetes of Japanese guidelines are different from the Amsterdam Forum criteria. Kidney Disease: Improving Global Outcomes (KDIGO) published guidelines for the care of renal transplant recipients. The Japanese Society for Clinical Renal Transplantation also presented guidelines in some selected fields. The development of guidelines regarding renal transplants is expected to result in high-quality clinical transplantation.

Keywords: Japanese guidelines for renal transplant donors, Japanese guidelines for renal transplant recipients, Amsterdam Forum guidelines, Kidney Disease: Improving Global Outcomes, guidelines for renal transplant recipient

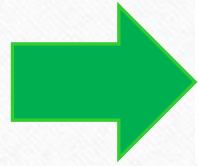
はじめに

良質な医療の実施には標準化が不可欠である。腎臓移植に関連する医療は、各国における移植医療の歴史や、医療を取り巻く社会的背景が同じではないことを反映するため、移植先進国の欧米と日本のガイ

ドラインは同一にならないことがある。

日本移植学会ホームページに記載されている腎移植関連のガイドラインには、生体腎移植ガイドライン¹⁾、生体腎移植ドナーガイドライン²⁾、腎臓採取マニュアル³⁾がある。ガイドラインではないが腎移植医療の倫理面から検討した生体腎移植ドナーの範囲を定めた規定がある⁴⁾。また、唯一の臓器移植調整機関

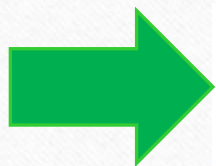
* 文献も参考してください



腎移植を受ける人の体調は？



- まず、腎移植を受ける人（臓器をもらう人）を**レシピエント**と言います。
- 一方で、臓器を提供する人を**ドナー**と言います。
- レシピエントは基本的には全身麻酔に耐えられる心肺機能であり、全身状態が良好な腎不全患者さんであれば腎移植を受けられることができます。
- ただし、年齢など患者の背景や、腎移植を受けることが出来る基準や規定は移植施設により若干異なるため**お近くの移植施設の医師や移植コーディネーターと十分な話し合い**が必要です。



腎移植を受ける一般的な条件 として言われていることは？



(レシピエント)

年齢

腎移植の年齢の上限は一般的には65～70歳とされていますが、年齢の制限は各施設にお問合せください

血液型

腎臓を提供される方と血液型が違っていても移植は可能です。その場合には追加の処置が必要になります

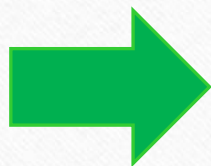
感染症

移植後は免疫抑制薬を服用しなければいけないため、感染症がないことが条件となります。活動性の感染症や感染のリスクとなるような状態（むし歯もその内の一つです）があれば治療を行った上で移植が行われます

悪性腫瘍

免疫抑制薬を服用するため、悪性腫瘍があると移植はできません。ただし、悪性腫瘍の種類によっては治療後、一定期間再発がなければ移植が可能となります

* 他にも条件はありますが、詳しくは日本移植学会ホームページ、生体腎移植のガイドラインを参照してください



「移植を希望したい」と 患者さんに言われたら



- 患者さんは生体腎移植を希望されていますか？ 献腎移植の希望をしていますか？
患者さんの意向を確認し、まずは主治医に相談しましょう。
その上で移植施設への紹介・相談をしましょう。
- 腎移植施設を選ぶ時のポイントとしては、可能であれば通院可能範囲の施設を選択することをおススメします。
- 選択した移植施設の移植希望窓口（移植外来、移植医療支援室、レシピエント移植コーディネーター）や地域連携室に連絡を取り、受診の日程を調整してもらいます。
- 透析を受けている患者さんは、どのタイミングでも紹介は可能ですが、**必ず主治医からの紹介状の持参**と出来るだけ**家族の同席**をお願いしています。
- まずは、移植のお話を具体的に聞いていただき、その場で移植を決めるのではなく、その後に実際に検査まで進めるかを自宅に持ち帰り家族と相談してきてもらいます。



先輩からの一言 まずは・・・



- 移植に関する情報収集をしてみよう。
- 移植実施施設を調べてみよう。
- 施設のホームページを見てみよう。
- RTCの名前や顔を確認してみよう。
- 透析主治医に相談してみよう。

* RTC=レシピエント移植コーディネーターの略

透析を始めても療法変更は大事
これぞCKDトータルケア





「山田さん移植についてお話ししましょう！」



- じん子「山田さんは腎移植についてご興味があるんですね！ 腎移植の種類ってご存知ですか？」
- 山田「え？ 種類ってなに？ 腎臓もらうのが移植じゃないの？」
- じん子「ご親族など生きてらっしゃる方から片方の腎臓を提供していただく生体腎移植と、臓器移植ネットワークに登録して亡くなられた方から提供された腎臓を移植する献腎移植があるんですって！ 山田さんのご希望はありますか？」
- 山田「えー！ そうなんだ。ちょっとじっくり教えてくれる？」
- じん子「もちろんです！ いっしょに勉強しましょう★」

